

山梨・大月 生涯青春大学 PROJECT NEWS

山梨・大月生涯青春大学
プロジェクト事務局
kkzaisei-19206@city.otsuki.lg.jp
0554-23-5011

(大月市企画財政課地域活性化担当)



大月でつながる世代・地域を超えた発見・探求・経験プロジェクト！ 山梨・大月生涯青春大学プロジェクトスタート！

山梨・大月生涯青春大学プロジェクトでの地域の方々と交えた初めての活動として、キックオフ・フォーラムと第一回ビジョンマップ策定ワークショップが12月5日（日）大月短期大学で行われました。小林市長、大月短大佐藤教授をはじめ、地元の学生のみならず、幅広い年代の方が42名ご参加され、大月市の未来を考えるプロジェクトがスタートしました。

●開会挨拶

大月市長
小林信保



キックオフ・フォーラム 第一部 ～未来に繋げる地域づくりを目指して～

○事業の経緯



大月市 産業建設部 坂本 和彦部長より、当プロジェクトの実施に至るデュアルベースタウン研究会での活動やグリーンワーケーション大月研究会の発足、旧浅利教員宿舎の改修などの経緯をご説明しました。

○事業の予定



○事業の背景

プロジェクトコーディネーター 山本 聖より本事業の背景についての説明。



ビジョンマップ策定には、より高い目標を達成するための「バックカastingで未来を考えることが」必要。ビジョンの可視化のためにみんなで考えていきましょう！

地域創生プロジェクトの究極の目的は「定住自立の促進」
「人口減少社会における地域創生のための持続可能なモデル」



・地域創生プロジェクトの目的は「定住自立の促進」



大月市が目指す将来像「人流・物流・情報・文化の4つのゲートウェイ構想」

地方創生プロジェクトにおける消費者視点の3ステップ
「知る」「行きたい」「住みたい」



「知りたい」「行きたい」「住みたい」の3つのステップが踏める消費者視点の商品・サービスの提供の必要性を理解しよう。
→ 熱熱なファンづくり



・MOON SHOT
→ 月を目指す高い目標

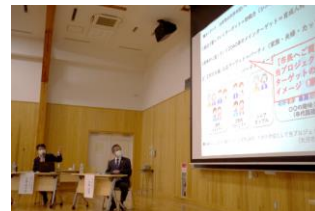


プロデューサー 鈴木 靖子より、ビジョンマップ策定に向けての今後の戦略会議、ワークショップなど今年度のカリキュラムを紹介。性別・年齢・職業等は問いませんのでふるってご参加ください。（参加無料）

第2部 パネルディスカッション「大月市の未来を語る会」

パネルディスカッションは大月市立大月短期大学 佐藤 茂幸教授と大月市 小林市長をパネラーに、プロジェクトコーディネーター 山本氏をファシリテーターに進行。

本プロジェクトの資料のポイントを市長に伺いながら佐藤教授のご意見を伺う形で活発な意見交換が行われた。



大月短期大学 教授 佐藤茂幸様



大月市長 小林 信保



ファシリテーター 山本 聖

プロジェクトタイトル「生涯青春大学」命名の意味＝地方創生・町おこしを住民の皆さんと楽しくやり続けていきたいという小林市長の思いからスタート。人口減にストップをかけ、今後の定住・二居住につなげていく本事業の重要性を改めて提示。その上で2040年の出産期層である2020年時点の小中高生とその親、20年後の二拠点生活(移住者含む)をターゲットとして想定することを確認。また受け入れる大月市が、住みやすさ・暮らしやすさなどの将来の大月の姿を三世代でしっかりと考え、また違うライフスタイルにも視野を向ける必要があることなど、大月市の未来に向けて進めていくべき方向性について語られました。

Q「生涯青春大学」命名の意味

A 地方創生・町おこしを住民の皆さんと楽しくやり続けていきたい。楽しいこと・役割があること、成長できる場を作り出す。当事者として集まって欲しい。

Q「桃太郎」の活用について

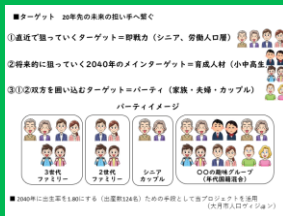
A 地域資源の一つ桃太郎。猿は知識、キジは勇気と高い見地、犬は仁・徳、そこにきびだんご＝富を加え、健康の象徴である桃太郎を中心に据えて大月市のPRに活かしたい。

Q 当プロジェクトのターゲットは？

A ターゲットは2040年の出産期層である2020年時点の小中高生とその親を想定する。20年後の二拠点生活者を想像し、親子、三世代の意見で人口減に歯止めをかけたい。

Q ターゲットの具体的なイメージ

A 三世代同居は素晴らしいが世代だけでなく大月市でどんな暮らしをしたい？ キャリアデザインをする？ など違うライフスタイルにも視野を向けることが必要と考える。



Q プロジェクトを通じた未来の姿

A 「ステップ1の浅利の錬成館が完成した。アイデアを出し・産業を作り・人を作る。リアルなこうした「場」があることの意義踏まえ、皆さんの力を借りて世代を横断する未来の姿を作りたい。



「浅利から始めましょう！」

小林市長より10年後、20年後、大月がいい街になった時、今日この場がそのスタートだったなと思える場になって欲しいとの願いを。佐藤教授より「ムーンショット＝大きな夢、大月ですから「ビッグ・ムーンショット」でっかい夢！でいけますねというエールをいただいた。



プロジェクトコーディネーター 山本 聖
ワークショップサポート 小林 義幸

本日のカリキュラム

- 
 未来地図を描く (Ⅰ)
地元の魅力を発掘しよう!
 14:45~15:45
- 
 チームをつくる (Ⅰ)
地域人材の標記
 15:50~16:50
- 
 事業計画をつくる (Ⅰ)
地域行事の標記
 16:55~17:55



まず個人で地域にある商品、サービスなど「売れるもの」＝「地域産品」、それを売っている店・企業、それを生んだ地域の背景などを記入。続いてそれを生んだ大月の地元の紹介、産地の特徴、事業者の歴史などを記入し、グループ内で協議した。各グループとも、様々な年代、立場の異なるメンバー間で、大月市の魅力・売りとなるものを系統だてて挙げていく作業を通じ、各グループの中で様々な気づき、再発見があり、各グループごとの発表では「空港があつたらいい」「名物を宇宙食に」など、新たな視点から大月の未来を見据えた意見が披露された。



この作業は2回目にも持ち越しとなり、今後のビジョンマップ策定のための初回を終えた。

地域行事洗い出しシート[illegible]